

日本国際情報学会
国際開発研究部会 2024年度 第3回 研究報告会 報告書

国際開発研究部会 2024年度第3回研究報告会を下記のとおり開催しました。

記

1 部会目的

国際開発課題を経済開発と社会開発の両面から捉えて、ミレニアム開発目標(MDGs)や持続可能な開発目標(SDGs)を含む国際開発枠組み及び人間の安全保障・人権・社会開発のような開発理念をアプローチし、そして貿易と開発、技術移転・技術開発の促進、産業集積と地域経済発展、貿易障壁の削減の諸課題を経済学的な視点から理論・実証・政策の側面から研究する。

2 開催日時

2025年(令和7年)2月22日(土) 15時00分～17時30分

3 開催会場

日本大学通信教育部1号館81講堂とZOOM(Web会議) ー同時開催ー

4 研究報告会〔各報告25分、質疑応答15分〕 (敬称略)

(1) 開会挨拶：陸 亦群 国際開発研究部会長・日本大学経済学部教授



いろいろな機会を生かしてチャレンジして自己研鑽の場として活用していただきたい。

今回は3名の報告を予定している。研究段階は様々ですが、学会で刺激を受けて、共に発展していきたいと願っています。

来年度も同規模で、オンライン併用も行いながら、運営方法も見直した上で、意見交換をしやすい環境を整えていきたいと思います。

(2) 研究報告会〔各報告25分、質疑応答15分〕 (敬称略)

司会者：田中 隆 金城大学総合経済学部講師

第1報告 (15:05~15:50)

【対面】

報告者：山形優斗 (株)重化学工業通信社 記者

テーマ「日本のナフサクラッカー再編動向についての一考察

～ケミカルリサイクルの優位性に関する仮説～



石油化学工業の再編動向と持続可能性に関する問題点、期待される手法について整理した。

民間企業の認識を中心に発表したが、質疑では学術的な考察不足など、今後の研究課題も指摘された。

第2報告 (15:55~16:35)

【対面】

報告者：安 岩 日本大学大学院総合社会情報研究科後期課程

テーマ「経済低迷期における中国の農民工の農村回帰と内需拡大：危機克服の戦略」



ポスト・ルイス転換点を迎えた中国では、産業構造の高度化が進む一方、米中対立により輸出依存型の製造業が打撃を受け、農民工の雇用不安が深刻化している。

発表では1960年代の帰郷運動を分析し、農村が「労働力のセーフティーネット」として機能してきたことを明らかにした。また、ハリス＝トダロモデルと比較し、中国特有の労働移動の特徴を示すとともに、農村回帰が内需拡大に与える影響を検討した。結論として、農村は単なる労働供給源ではなく「成長エンジン」としての役割を果たし、中国経済の安定と持続的成長に寄与する可能性を指摘した。

第3報告（16：40～17：20） 【対面】

報告者： 泉谷 清高 日本大学大学院総合社会情報研究科後期課程修了・博士
テーマ「Net Zero 2050実現の難しさ ～2つの気候変動対策～」



1970年代から2021年までのCO₂排出量を元に2050年におけるCO₂排出量を茅恒等式より推計した結果、Net Zero2050の実現は難しいことが明らかになった。気候変動対策には緩和策と適応策の2種類があり、当面、気象の激甚化は加速することが避けられないため、緩和策だけでなく適応策への取り組みが重要であると指摘した。

(4) 日本大学大学通信教育部教授 前野 高章



発表された3名の皆さん、お疲れさまでした。今年度は、予定通り3回の部会が終わりました。来年度は運営方法の見直しを図り、活性化させていきたいと思っております。学会員の皆さんの多数の参加をお待ちしております。

5 参加者

18名（会場11名、ZOOM7名）

